

宇都宮市立平石北小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を食べているか」「就寝や起床の時刻が決まっているか」等の基本的な生活習慣についての質問に対して、肯定的な回答をしている児童は約90%を超えており、ほとんどの児童が規則正しい生活をしていることが分かる。

○「家の手伝いをしているか」について、肯定的な回答をしている児童の割合は約91%である。児童は家庭で自分の役割をもち、家族の一員として主体的に生活している様子が見られる。

○「人の役に立つ人間になりたいと思うか」について、肯定的な回答をしている児童の割合は100%である。また、「人が困っているときは進んで助けているか」について、肯定的な回答をしている児童の割合は約90%である。児童は、他者に対し優しい気持ちをもって接し、進んで役に立とうとする思いを持っている。

●「自分によいところがあると思うか」に対する肯定的な回答をしている児童の割合は約78%で、この値は県や全国の割合とほぼ同じである。積極的に児童のよい面を捉えて称賛することにより、一人一人に自己有用感を持たせるようにする。

●「地域の行事に参加しているか」について、肯定的な回答をしている児童の割合は約50%である。児童が積極的に地域の行事に参加するように、学級懇談会や学年だより等で保護者に啓発していく。

●「家で宿題をしているか」について、肯定的な回答をしている児童の割合は約97%である。しかし、「自分で計画を立てて勉強しているか」について、肯定的な回答をしている児童の割合は約70%である。児童は決められた宿題には取り組むことはできるが、自分から考えて主体的に学習することは苦手である。家庭学習の例を提示するなど、児童が進んで自主学習ができるようにする。